

機関番号：62615

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21730508

研究課題名（和文） インターネット利用における評判情報流通と社会関係資本に関する社会心理学的研究

研究課題名（英文） Social psychological study on social capital and developing a reputation by using the Internet

研究代表者

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSURO)

国立情報学研究所・情報社会相関研究系・助教

研究者番号：60455194

研究成果の概要（和文）：

本研究は、インターネット利用における評判流通が社会関係資本にもたらす効果について実証的に明らかにすることにある。その結果、協力的な社会秩序の生成のために有効な評判生成基準、評判生成に用いられる情報の構造、良い評判と悪い評判の共有率の非対称性について興味深い知見を得た。さらに、評判流通コミュニケーションを測定するためにスマートフォンを利用した新しい測定方法を開発し、インターネット利用における評判流通が社会関係資本変数に対してどのような効果を持っているのかを多変量解析を用いて分析した。

研究成果の概要（英文）：

The effects of developing a reputation based on the Internet on social capital were investigated. Results indicated the following: (1) the effectiveness of reputation-building norms in generating a cooperative social order, (2) the structures of information that is used in reputation building, and (3) an asymmetry in the extent to which good and bad reputations are shared among communities. Furthermore, a novel methodology was developed in order to measure the development of Internet based reputations. This methodology used smartphones to collect communication logs and social survey data from the same respondent. By merging communication logs through the Internet with social survey data that tapped variables related to social capital, a dataset that facilitated investigations on the effects of developing an Internet based reputation on social capital was established.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：メディア・電子ネットワーク

## 1. 研究開始当初の背景

社会関係資本とは社会的ネットワーク・信頼感・互酬性を要素とする構成概念である。緊密な社会的ネットワークを通じた集合的コミュニケーションは他者に対する高い信頼感と互酬性の規範の形成を促し、さらに社会的信頼と互酬性の規範は他者との協力的行動を促進するため、コミュニティあるいは社会レベルでのポジティブな効果を生み出すと考えられている。特に、インターネット利用は、人々の集合的コミュニケーションを低コストで実現する点において社会関係資本論との理論的整合性が高く、その有効な活用が期待されている。

インターネットは、コミュニケーションの空間的・時間的制約を大幅に低下させ、いつでもどこでも評判を受発信することを可能にしている。また、ウェブログや SNS(Social Networking Service)のようなソーシャル・メディアの登場により、N 対 N の形で評判を受発信するためのコストが劇的に低下しつつあるだけでなく、レイティング(格付け)などの形で評判が可視化されることで交換関係の選択の形成も容易になりつつある。このように、インターネットは少なくとも潜在的には評判の流通量・範囲ともに大幅に拡大することを可能にしたといえよう。こうしたインターネット利用の特徴は、評判の流通を促進することで、オンライン上での人々の社会的交換をオフラインと同等あるいはそれ以上に円滑にし、高い互酬性を実現している可能性がある。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、インターネット利用の社会的帰結に関する知見と評判情報(以下、評判)の社会的効果に関する理論を有機的に接合し、インターネット利用における評判流通が社会関係資本にもたらす効果について実証的に明らかにすることにある。

## 3. 研究の方法

2009 年度は、以下の方法による基礎的な分析を行った。

(1) 評判による社会的交換相手の選別と社会的ネットワークの関連について、マルチエージェントシミュレーションによる理論的検討を行った。

(2) 二次情報が対人印象に対してもたらす効果について、一次情報(協力的・非協力的)と二次情報(過去の交換相手の評判)を操作したシナリオ実験をインターネットを介して行った。

(3) 現実の社会的文脈(近隣と職場)における評判の良い人と悪い人について、その評判の根拠となる出来事や評判の主観的共有率

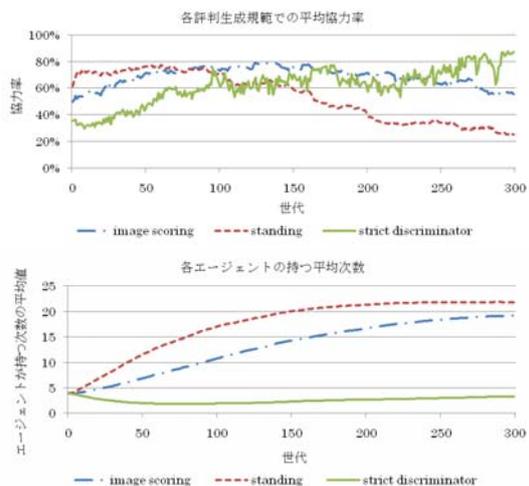
を測定するためにインターネット社会調査を行った。

2010 年度は、Android OS を搭載したスマートフォンにインストールされることで、通話や SMS および Gmail のやり取りのログを記録できるソフトウェアと社会調査を用いて、インターネットや携帯電話を介した評判流通コミュニケーションが社会関係資本に及ぼす効果について分析を行った。

## 4. 研究成果

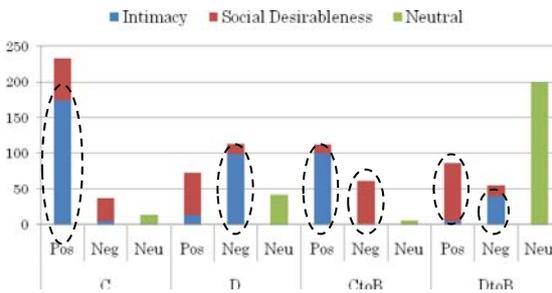
2009 年度は以下の 3 つの成果を得た。

(1) 評判による社会的交換相手の選別と社会的ネットワークの関連について、マルチエージェントシミュレーションによる理論的検討を行った。これまでの評判研究では、潜在的な交換相手の評判(一次情報)だけでなく、その相手が過去にどのような相手と交換を行ってきたのかに関する情報(二次情報)を考慮することが互酬的な協力関係の発展に有効であることが示されている。本研究では、社会的ネットワーク構造を導入したシミュレーションによって、より現実的な設定の元で二次情報の有効性を確認した。その結果、先行研究で有効とされてきた Strict Discriminator 戦略(SD 戦略)が優勢な状況では社会ネットワークが疎で排他的な構造となる傾向があり、高い協力率と豊かな包含的ネットワーク構造は背反的な関係にある可能性が示唆された。

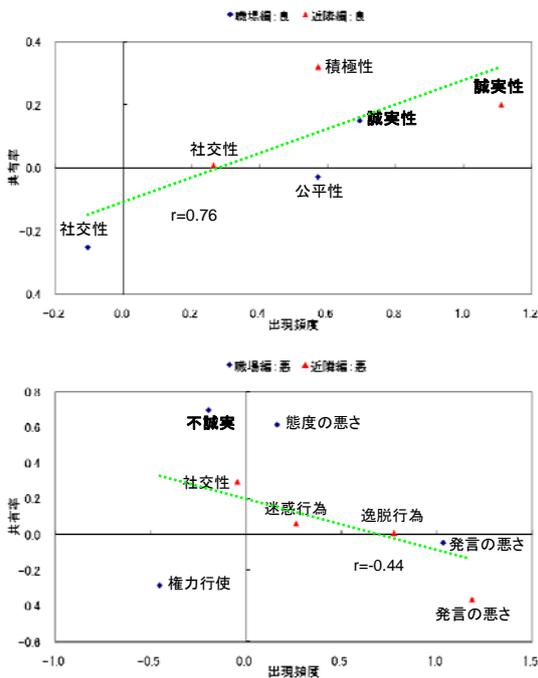


(2) 二次情報が対人印象に対してもたらす効果について、一次情報(協力的・非協力的)と二次情報(過去の交換相手の評判)を操作したシナリオ実験をインターネットを介して行った。その結果、対人的印象のレベルは 3 段階に分かれることが示された。これは、一次情報と二次情報の組み合わせから人が 1 次元の対人印象を形成するのではなく、社会

の望ましさと個人的親近感の2次元によって他者を評価することに由来する可能性が示唆された。



(3) 現実の社会的文脈（近隣と職場）における評判の良い人と悪い人について、その評判の根拠となる出来事や評判の主観的共有率を測定するためにインターネット社会調査を行った。テキストマイニングの結果、良い評判は生起率と主観的共有率が正相関するのに対し、悪い評判は負相関する対称性が見られた。これは、良い評判は協力的な行動を蓄積することで獲得できるのに対し、悪い評判は小さい生起頻度であっても低い信頼性を暴露することになるため広く共有されやすくなる可能性を示唆している。



2010年度は、特に携帯電話とインターネットを用いたコミュニケーションにおける評判流通の可能性に注目し、通常の社会調査とは異なる独創的な方法によって仮説検証を行った。まず、Google社製のAndroid OSを搭載したスマートフォンにインストールされることで、通話やSMSおよびGmailのやり取りのログを記録できるソフトウェアを開発

した。このことによって携帯電話を介したコミュニケーション行動が誤差なく測定できる。インターネット調査会社のモニタ会員の中からAndroid OSを搭載したスマートフォンを日常的に用いているサンプルを対象としてこのアプリケーションのインストールを求めた。本アプリケーションは社会調査機能を持ち、携帯電話の電話帳に登録されたコミュニケーション相手をサンプリングした上で、特定の相手との間での評判流通の量、範囲、内容が測定可能である。さらに、回答者の一般的信頼や互酬性、パーソナル・ネットワークのサイズ・同質性/異質性など社会関係資本に関連する変数も測定された。これらのデータをすべて紐付けすることによって、携帯電話や対面コミュニケーションにおける評判流通が社会関係資本変数に対してどのような効果を持っているのかを多変量解析を用いて分析している。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)  
1. 鈴木貴久・小林哲郎 評判生成規範の寛容性が社会的交換の協力率に及ぼす効果：社会的ネットワーク上での進化シミュレーション 理論と方法 査読有 (印刷中)

〔学会発表〕(計6件)  
1. 鈴木貴久・小林哲郎・針原素子・高木大資 近所づきあいでの評判利用：不安と社会的流動性からの分析 日本社会心理学会第51回大会 2010年9月 広島大学

2. 鈴木貴久・小林哲郎 評判生成規範の寛容性とネットワークサイズ：評判による「厳しい」選別と豊かな社会関係資本は両立するか 数理社会学会第50回大会 2010年9月 獨協大学

3. Suzuki, T. & Kobayashi, T. Web-based experiment to analyze norms of reputation making - How to evaluate actions with a opponent having a bad reputation. The 10th Annual International Symposium on Applications and the Internet (ITeS 2010). 2010年7月 Seoul.

4. 鈴木貴久・小林哲郎 職場や近隣における人の評判の類型化と共有度：テキストマイニングによるアプローチ 数理社会学会第48回大会 2010年3月 立命館大学

5. 小林哲郎・針原素子・高木大資 評判の共有と利用における携帯メール利用の効

果：地域間比較の視点から 日本社会心理学  
会第 50 回大会 2009 年 10 月 大阪大学

6. 鈴木貴久・小林哲郎 ネットワーク型囚  
人のジレンマゲームにおける共有された評  
判の効果：評判基準の寛容性と協力率の維持  
に着目したシミュレーション 数理社会学  
会第 49 回大会 2009 年 9 月 北星学園大学

〔図書〕(計 1 件)

1. 小林哲郎 (その他多数) 丸善 社会心  
理学事典(「評判」の項の執筆を担当) 2009  
年 700 ページ

〔その他〕

ホームページ等

<http://researchmap.jp/munimuni/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小林 哲郎(KOBAYASHI TETSURO)

国立情報学研究所・情報社会相関研究系・  
助教

研究者番号：60455194

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：